



2018年

5月人権一口講座



見た目にはわからないことも・・・

自分ではまだ若いと思っていましたが、四ヶ月ぐらい前から四十肩になり右腕が上がらなくなっていました。四十肩とはよくいったもので、四十過ぎて本当になるものだとの意味感心しています。先日、事務所に来客があり、お茶をつぎ、運ぼうとした際、右手に熱いお茶がかかり、おもわず反射的に右手を振り払いました。普段なら痛くて動かしませんが、無意識に動かし右手には雷が落ちたような電気が走り、その後、なんともいえない激痛で悶絶しました。当たり前ではありませんがその痛みは、まわりには誰にも伝わっていませんでした。

話ばかりですが、半年前には実家の庭木の伐採を二日ばかりでしていた際、疲れで集中力が途切れ、チェーンソーで誤って左手中指の爪から第二関節まで縦に切ってしまうことがありました。その痛さたるや人生で一番かもしれません。病院で十数針縫い、数ヶ月包帯をしていました。その際には、会う人、会う人に「どうしたんですか。」と聞かれ、その度に事情を説明しました。包帯など見た目にわかる怪我は気遣ってもらえますが、本人にしかわからない四十肩は自分で痛みを訴えない限り、誰にもわかりようがありません。以前、ある番組を見ていて同じようなことを感じたことがありました。NHKの特番で百人の障がい者が健常者に物申すという番組でした。見た目にはまったく障がいがあるとわからない難病の若い子がバスや電車に乗れないと訴えていました。ずっと立っているのが困難らしいが、見た目が若く、障がいがあるように見えないので誰も席を譲ってくれないと嘆いていました。

わたしたちが気づかないだけで、さまざまな支援を必要としている障がいのある方は身の回りにたくさんいるのかもしれない。そんな支援を必要とする人たちが手伝ってほしいことを周りに知らせる便利なカードがあります。ご存知の方も多いと思いますが、ヘルプカードです。その人に必要な合理的な配慮ができるよう、カードに手伝ってほしいことを記載するカードです。ということとは、たくさんの人たちがこのカードの存在をきちんと理解し、支援しないと意味がありません。熊本県や熊本市が作成し配布するヘルプカードは、区役所のほか各総合出張所、ふれあい文化センターや熊本市内の各公民館にもおいてあります。

誰しも歳を取り、様々な手助けが必要となります。みんなで助け合えるやさしい社会を築きたいものです。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけしーより」)



短いメッセージ

松ばづえもってきて ありがとう
けがしてわかった 友達の大切さ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 白山小学校 4年 竹下 諒さんの作品より